

きょうと 京都ものがたり

京都市図書館情報誌

vol.13

平成18年9月発行

あなたの好奇心に応えます



OPEN YOUR BOOK AT PAGE 4, PLEASE



あのとしこのとし
これからのとし



目次

- ② インタビュー 京都市教育長 門川大作
「『読み聞かせ』で子どもたちの感性を豊かに」
- ③ 図書館小特集 ご存知ですか？こんなサービス！
「あなたの『読みたい』におこたえします～
図書の予約・リクエスト～」

- ④ ⑤ 特集 「あのとしこのとしこからのとし」
- ⑥ 図書館の特色紹介 「醍醐中央図書館」
- ⑥ 図書館コラム 「絵本の世界」
- ⑦ 図書館の特色紹介 「岩倉図書館」

- ⑧ U.C.Libニュース 「右京中央図書館Q&A・その1」
- ⑧ 利用者の声 「青春時代の思い出の一冊」
- ⑧ 編集後記 「本と人を結ぶ架け橋になりたい」

interview

「読み聞かせ」で 子どもたちの感性を豊かに



かどかわ だいさく
門川 大作
京都市教育長

中央教育審議会や「新児童教育振興プログラム策定会議」委員など国の教育改革にも参画している門川大作教育長が、読み聞かせの大切さや読書活動振興市民会議での取組などについて語りました。

読み聞かせの大切さ

20年余り前のことです。私が、夜遅く帰宅すると、寝かけていた子どもが起きてきて絵本を一杯抱えて「読んでー」とせがみます。深夜帰宅・休日出勤続きですので、久々のスキンシップ、と読むと、必ず絵本の同じ箇所で笑います。読み終え、「おしまい」と言いますと「もつとー」と。その時は4人の子宝に恵まれましたが、丁度長男誕生の少し後に中央図書館が開館。ラッキーでした。私の友人が、「図書館が出

来、日常的に活用させて貰って、生活の質が変わった。正に「文化大革命」や」と言いましたが、同感です。私も図書館を大いに活用させて貰いました。そして「これは名作」と思った本は買って、今も大切にしている本もあります。学校を訪ねた時、同じ本に出会いますとともに嬉しいですね。仕事の多忙さ故、子育ては妻任せに。家族旅行等の記憶も全くと言つてよい程ありません。反省ばかりですが、読み聞かせが数少ない親子の触れ合いで、絆を培つてくれたと思います。また、読み聞かせを通じて私自身も瑞々しい感性に触れ、得難い学びの機会でした。今も、成人した子どもが「この本読んだら」と勧めてくれるのは最高です。

子ども読書活動振興市民会議の発足
近年、子どもの読書離れが深刻なもので、平成14年に「子ども読書活動振興市民会議」を発足させて貰いました。市立紫野高出身、後に芥川賞受賞の綿矢りさん、童話作家

のあまんきみこさん、梨木香歩さん、市民公募委員、学者、まちの本屋さんの代表など多彩な委員さんに2年間、熱い議論をしていたとき、幅広い市民の方々の意見も募られ、提言がまとまりました。議論の中で、あるお母さんの委員が「子どもを膝に乗せ、せがまれるままに読み聞かせをした頃が今思えは至福の時だった。今も膝の温もりを忘れない。若いお母さんにそのことを伝えたい」と発言され、みんな同感。早速、樹本市長に提言し、現在、市内全ての保健所の8ヶ月検診時に実施されている「絵本ふれあいボランティア事業」に結実しました。子どもみらい館でのボランティア養成講座を修了され活躍いただいている方々は200人近くに。京都ならではの市民力、地域力を痛感し感謝の気持で一杯です。

京都市では厳しい財政の下ですが、市民会議の提言を下に「子ども読書活動推進計画」を策定。現在、あらゆる機会を通して取組を充実しています。全ての学校での朝読書、めざせ100冊読書マラソン、ボランティア活動の充実等々。今年度更に「本大好き学校図書館推進プロジェクト」も発足し、創意あふれる活動が展開されます。

このほか、右京中央図書館（仮称）の建設や図書館の夜間開館拡大、インターネット予約システムの稼働など、図書館サービスの充実にも果敢に挑戦しています。子どもも大人も「本大好きな京都」を市民の皆さんと共にと念じております。皆さんのご理解ご協力に感謝しつつ。

ご存じですか？こんなサービス！

あなたの『読みたい』に おこたえします

～図書の予約・リクエスト～

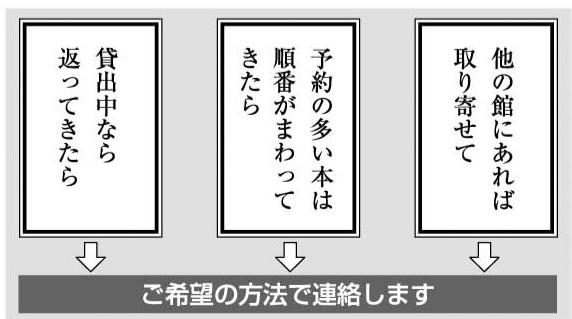
- ① 図書館に来てみたけれど
読みたい本が本棚にない



こんな時、あきらめてしまっていませんか？



あきらめないで予約・リクエストカードを書いてカウンターに出してください
(インターネットからも予約できます)



- ② 京都市の図書館になくてもOK！



ご要望におこたえして購入を検討します



京都市で購入できない場合は全国の図書館をお探しします。

☆国内のあらゆる本の宝庫、国会図書館の本も取りよせできます

(ただし館内での閲覧のみで、貸出はできません)

※府外図書館からの取り寄せは一部送料をご負担いただきます



特集

あのとしこのとし

昭和31年
四十八歳の抵抗

石川達三 新潮社



定年間近の会社員西村は平凡な生活に飽き、衰えゆく肉体の焦りから酒場の少女との恋に人生最後の冒険を試み、銀座に熱海と遍歴を始める。『四十八歳の抵抗』は出版から50年を経て男性にどう映るのか。

昭和37年

野生のエルザ

ジョイ・アダムソン 文藝春秋



ライオンの子どもエルザを育てた著者の感動の記録。映画化された作品もヒットしたが、一部ではたして人と動物がこれほどまでに親しくなるのかという懐疑的な批判もあった。時を経た現在なら、エルザとジョイの関係に純粋に涙できる人が多いかもしれない。

昭和46年・47年

二十歳の原点

高野悦子 新潮社



学生運動さなかの京都、入学した立命館大学やアルバイト先の京都国際観光ホテル、丸太町御前通りの下宿先など京都が舞台となる。「情熱家ショパン」と言われた著者が昭和44年6月に自殺するまでの胸の内を綴った日記が2年連続のベストセラー入りとなった。

昭和48年

恍惚の人

有吉佐和子 新潮社



参考文献

※『出版データーブック 1945-2000』出版ニュース社刊

なつかしの本をもう一度

- ・あの頃の記憶がよみがえる、なつかしのベストセラー。
- ・はじめて読んでみてもおもしろい！

これからとのとし

定年後は
海外ボランティアで
「自分の経験」を生かそう

国際協力事業団（JICA）編著
亜紀書房（2001）



国際協力事業団法に基づいて1974年に設立された政府特殊法人、JICAによる、シニア海外ボランティアの紹介本。海外ボランティアは原則として、相手国の具体的な要請に応じて派遣される。もちろん、専門的な技術者も求められるが、中には、柔道、手工芸、園芸についての専門家の要請もあるそうだ。常に、派遣された相手地域の意向をくんで行動することが肝要だが、自分の技術や経験が海外の人たちに役立つと思えば、やりがいがありそうだ。



団塊シニアの「生き甲斐」
発見ブック②
とびっきりの笑顔を知っていますか？

加藤仁監修 技術評論社（2006）

定年後の人生の生きがいとして、福祉や介護関係のNPO活動を紹介。高齢者に、素人ならではの芸や笑いを提供する活動、話し相手になる傾聴ボランティア、自分でできない高齢者に代わって大工仕事をするなど、様々な活動が紹介されている。会社勤めでの経験を生かせる場、人の役に立てるという新たな生きがいを感じられる場を探している人には、介護・福祉の世界は注目である。

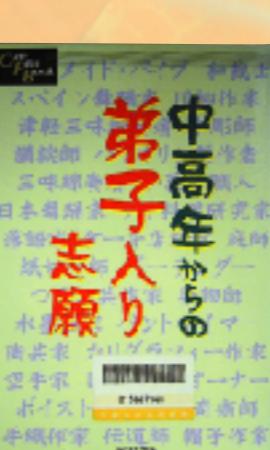
ふるさとベンチャー奮闘記

財団法人 地域総合整備財団
<ふるさと財団>編集
東洋経済新報社（2001）



各地元に根ざし、また、その土地柄を生かしたベンチャー企業の事例集。例えば、地元大学との産学共同が盛んな京都の事例や、地域の特産品を活用して、付加価値商品を開発した企業などが、紹介されている。何か創業を考えている人のヒントになるかもしれない。

【全国47都道府県】
ふるさとベンチャー奮闘記



中高年からの弟子入り志願

ビジネス社（2001）

この本では、中高年になってから、プロの師匠に弟子入りして、自分の新しい夢を実現した人たちが紹介されている。主婦から手織り物作家へ、役者から木版画家へ、土木建築士から手作りパイプ職人へ、などなど。好きなことを究めるもよし、長年の夢をかなえるもよし、全く新しいことにチャレンジするもよし。とにかく元気なパワーをもらえる一冊だ。



新自然のしごとがわかる本

永田さち子・沼沢将夫著
山と溪谷社（2003）

本書では、様々な自然を舞台に活躍する職業が紹介されている。例えば、森や山なら、樹木医、パークレンジャーなど。海なら、魚の養殖やライフセーバー。大地を相手に、野菜栽培やグリーンコーディネーター。空なら、気象予報士など、実に多岐にわたる。また、各仕事についての問合せ先や、各業種別の、収入、知識、安定性などの度合いを表すグラフなど、役立つ情報満載だ。

七 カンドライフを楽しみたい方にお薦めの本

・新たな旅立ちにむけて

右倉図書館

学校へ出向いてブックトーク

「子どもたちと本をつなぐ架け橋として」



地域の小学校と連携して、子どもたちの読書意欲を高めるためにはどうすればよいのか？図書館として何ができるのか？どのような取組をして

いけばよいのか？

そのような課題を解決するため、近隣の小学校3校との話し合いをしたのは平成14年の5月でした。

その場で、小学校側から「図書館の情報報を学校に伝えてほしい」「図書館から学校へ来てもらって何かしてもらえないか」などの要望があがりました。

それに応えるものとして、平成14年9月から新刊図書の紹介や行事の案内などをする「図書館だよりいわくら」を年間3～4回のペースで発行し、小学校3校、幼稚園1園の全児童・園児に配布しています。

そして、図書館司書が学校へ出向いて何ができるのかを考えた結果、決まったのが「ブックトーク」でした。「ブックトーク」とはひとことで言うと「テーマを決めて本を紹介すること」です。單に、1冊ずつ「この本には、こんなことが書いてあるよ」と説明するのではなく、テーマに沿ってトークでつなぎながら聞き手が本を読みたくなるように何冊かの本を紹介していくのです。

当時の司書4人の中で経験者は1人だけでした。閉館後に何日も職員同士での研修や練習を繰り返し、初めて小学校でブックトークを行ったのは平成14年11月でした。それからは、学校でも校内行事の一環としてとらえていただき、毎年、各学年の学級ごとにブックトークをしています。

ブックトークの成否の鍵を握るのは「本との出会い」です。これだとと思う本当に出会うまで探し続けます。50～70冊ぐらいを読み込んだ上で、紹介する7～8冊を選び出します。日常業務に支障のないように準備するにはキツイ時もありますが、本を見つめる子どもたちの真剣なまなざしや放課後、ブックリストを持って図書館にやってくる姿を見ると、やつて良かったという気持ちになります。

今後も、子どもたちと本とをつなぐ架け橋となつて、子どもたちの本の世界が広がっていくことのお手伝いができればと思っています。



<U.C.Lib ニュース③>

平成18年4月、京都市中央図書館内に「右京中央図書館開設準備室」（右京中央図書館建設室を改組）を開設し、新図書館開設に向けた具体的な準備をスタートしました。

「開設準備室」では、「市民参加のワークショップ」や「みんなで考える新しい図書館作り市民アンケート」で寄せられた意見・要望を設計に反映した“市民とのパートナーシップ”による「より身近で、利用しやすい図書館」づくりを進めています。



再開発施設の北西から見た建設現場
(8月7日撮影) 進捗率10%

Q&A・その一

右京中央図書館(仮称)

このQ&Aは、皆様からお問い合わせいただいた内容を紹介しています

Q 右京中央図書館はどこにできるのですか？

A 現在、天神川御池周辺にて右京区の新たな交流拠点づくりとなる「太秦東部地区市街地再開発事業」が行われており、ここに建設される再開発施設の3階に開館します。

地下鉄東西線・新駅「天神川駅（仮称）」と直結し、通勤・通学時の利用にも大変便利な所になります。

Q 再開発施設は他にどのような施設が入居するのですか？

A 1・2階には右京区総合庁舎、4階には右京地域体育館などがあります。施設の地下には駐車場、駅前広場地下には駐輪場も整備される予定です。

Q いつできるのですか？

A 地下鉄延伸の開通とあわせ19年度中の開館に向け準備を進めています。

Q 「スリーフォー・プラスワン」という表現を聞きましたが、何を表しているのですか？

A 「スリーフォー・プラスワン」は床面積3,000m²、計画蔵書数30万冊、利用者用パソコン30台、施設3階からとり、「プラスワン」は市民参加の「参（サン）」を加え、「スリーフォー・プラスワン」とし、右京中央のキャッチフレーズにしています。“3・4+1（スリーフォー・プラスワン）図書館”として皆さんも覚えてください。

次号からも、引き続きご紹介していきます。



青春時代の思い出の一冊

テーマ

● 南区 内林 康夫さん (自営業)

青春時代は戦後の混乱期で、食にも活字にも飢えた時代を過ごした。読書の余裕のできた時は、青春ははるか彼方に過ぎ去り記憶に残る一冊は、司馬遼太郎の『坂の上の雲』で、日本が西欧の列強に負けじと努力していた明治時代、日露戦争を取り上げた感動巨編である。歴史をつむぎながら人物を魅力的に登場させ、時には作者の私見が散りばめられた物語が展開して行く面白さにたちまちファンになり、その後は図書館で先生の著書を愛読している。

● 右京区 西田 智子さん (主婦)

無我夢中で過ごしていた学生時代に、何をしてもうまくいかない時があり、その時出会ったのが、銀色夏生さんの『Balance』です。それには、世の中はすべてバランスとタイミングがあり、そのいちばんいい時期が自然と分かってくるから…と綴ってありました。この言葉にどれだけ励まされてきたことでしょう…! 現在、子どもと図書館通いをしていますが、子どもにとって一生の宝物になる絵本が見つかれば…と願っています。

● 左京区 東崎 すみ子さん (医療事務)

アーサー・コナン・ドイルの『シャーロック・ホームズ全集』です。図書館で何気なく手に取った『まだらの紐』がきっかけで、中学生の頃は毎日このシリーズばかりを読んでいました。自分の部屋に居ながら、気持ちはいつも霧のロンドンでホームズ達と一緒に事件を解決しているつもりになっていました。すぐに1冊を読み終えてしまいますので、次から次へと難事件に挑むかのように、ワクワクしながら図書館に通っていた事を覚えています。

● 東山区 井上 明夫さん (無職)

社会人になり、通勤途中に六波羅蜜寺の前を通っていてこの寺はどんな寺なのか興味を持ったのが、吉川英治著『新平家物語』を読むきっかけで、多感な青春時代真っ只中、登場人物の生き方に自分のこれから的人生を考えたりして夢中で読んでしまったのを覚えている。この本から本好きになり歴史小説を日本史・世界史といわず読み出した。「登山の目標は山頂と決まっていれる。しかし人生の面白さはその山頂ではなく、かえって逆境の山の中腹にある」著者のこの言葉が好きだった。

● 西京区 佐藤 洋子さん (主婦)

ホーマー少年のユリシスおじさんの食堂には、自動パンやき機、自動コーヒーカフェなど労力節約機が何でもそろっています。その中のドーナツ製造機から、ドーナツがあとからあとから出てくる『ゆかいなホーマーくん』は、私の小学校時代の大好きな本です。何回も読んでワクワクした感覚を今でも鮮明に覚えています。中に6つの事件が起こりますが、どれを読み返しても、とても愉快な話ばかりです。しかし、よほどドーナツが憧れのおやつだったんですね。

「本と人を結ぶ架け橋になりたい」

図書館にせっかく来たのに読みたいと思つて本が書架なく、諦めて帰つてしまつた経験はありませんか? 図書館にとつて大切なことは、施設・図書・そして司書なのです。カウンターにいる職員は単に貸出・返却だけをするのではありません。どんどん利用してほしいのです。難しい顔をして座つたり、忙しそうにしているように見えますが、利用者の皆様のお役に立てるよう日々努力しているので、気軽に声をかけてください。司書の役目はお探しの本を「草の根を分けてでも探し出す」ことです。

京図ものがたり vol.13

発行
平成18年9月

編集・発行
(財)京都市生涯学習振興財団・京都市中央図書館
〒604-8401 京都市中京区聚楽廻松下町9-2
TEL 075-802-3133
<http://www.kyotocitylib.jp/>
<http://www.kyotocitylib.jp/i/>